



COMMODITY

2015年後半の見通し

総悲観が新たな相場形成へ 安値をジックリと買い拾う

伝説的な投資家、ジョン・テンブルトンの金言に、『相場の起点は常に総悲観から始まる』があるが、金は一回、大きな相場が終わり、新たな起点を模索している。そういう意味では申し分なく、ここは周囲に惑わされず、徐々に安値を仕込

よくななかで米国の利上げを筆頭に様々な弱材料が出て、『金はやダメだ』という人気が広がっている。もともと、金を買うには、『市場が総悲観になるのが理想』と唱えてきたが、それが現実的な姿になってきた。今はこの安値でも現

GOLD 金



岡地 (株) 東京支店 投資相談部 チーフアドバイザー 千葉 純平氏

むのが定石。中長期的には安値歓迎だ。値頃だけを見ると、ショートカバーが入りやすい状況にあるが、金価格の底入れには早くとも9月までかかるだろう。この安値で鉱山会社は採算割れを回避しようと、生産を絞ろうとしているものの、その効果が出るのはまだ先だ。また、金は9月にかけて下がる季節習性があり、その

物筋は買いを見送り、大底が800ドル、ないしは900ドルという見方もあるが、個人的には1,050ドルを割り込まないと思う。金相場が新たなスタートに立つキツカケとなるのは米国の利上げ実施、ファンドや金ETFの買いが増えることなどだが、売り込みが増えた分、急激に戻る可能性もあり、この安値は買い好機といえる。

割安な白金に買い妙味あり 安値では現物手当の公算大

ニューヨーク金期近は今年1月の1、200ドル強から1、100ドル台割れまで下落した。ギリシャ問題が収束に向かっていることや、中国の株価暴落も原因かもしれないが、ここ数年は生産国の通貨安が金と白金の下落を招いたといっ

は限定的だ。また、7月に入ってから金と白金鉱山会社の労使交渉問題が始まり、スト懸念がある点にも注意したい。とりわけ、南アは白金の生産シェアが多く、価格は金に比べて割安なので、かなり買い妙味があるのではないかと

METAL 貴金属



岡地 (株) 東京支店 投資相談部 地代 英生氏

て良からう。特に、ユーロ安に連動して、南ア(南アフリカ共和国)の通貨であるランドが十数年ぶりの安値に沈んだことが貴金属の下げに拍車をかけた一因と判断している。

しかし、生産国の通貨がずっと下落し続けると思えないことに加え、ニューヨーク金期近の1,100ドル割れの水準はここ5、6年の安値で、下げ余地

下げ材料として予想される米国の利上げは、個人的には、年内実施の可能性は薄いと見ている。全世界的に利下げ競争をしているなかで、米国だけが利上げに舵取りをするとは思えないからだ。金は1,100ドル割れ、白金は1,000ドル割れのところを拾っていきたい。この水準では現物手当が入る公算が大きい。

利上げが確定してから買う 当面は売り先行の展開予想

原油は目先軟調が予想され、米国が利上げに転じた時には底を打って上昇するシナリオを描いている。従って、目先は売りで、利上げが確定してから買う作戦が賢明だろう。7月のFOMC(米連邦公開市場委員会)では利上げの時期を確

オイル増産、OPEC(石油輸出国機構)の生産シェア争い、イランの原油輸出などがあがるが、一番の弱材料はドル高である点を強調したい。冒頭で述べた通り、米国の利上げ前は思惑先行でドル高基調になりやすく、ニューヨーク原油期近

OIL 原油



岡地 (株) 東京支店 投資相談部 野川 佐知氏

定するものはなかったが、市場では米国の利上げが早ければ9月になるとの憶測が出ている。9月に利上げをするとの思惑先行でドル高に拍車がかかりやすい状態にあり、ドル高が継続する限り原油安は

昨年9月からドル高が鮮明になり、ニューヨーク原油も下げを強いられた。原油の弱材料に、米国のシエール

は今年3月18日につけた42・03ドルにトライする場面があってもおかしくあるまい。懸念しているのは、東京ドバイ原油市場における日経・TOCOM・原油ダブルブルEINの影響だ。野村證券が運用しているものだが、株価が修正安を演じると、その資金が流出する恐れがあり、内部要因の動きに注意したい。